



第 1687 回例会

平成 24 年 1 月 16 日(月)

12:30~ 海南商工会議所 4F

[お誕生・ご結婚祝い]

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング 「我等の生業」
3. ゲスト紹介
浄土真宗本願寺派
極楽寺 住職 伊井 智昭 様(大阪南 RC)
4. 出席報告
会員総数 60 名 出席者数 38 名
出席率 64.4% 前回修正出席率 86.44%

6. 会長スピーチ

皆さん、こんにちは。

本日は 1 月 2 回目の例会ですが、10 日前の新春夫婦例会では、親睦委員さん方のお陰で皆楽しく過ごせたこと、改めてご苦労様でしたと云わせて頂きます。

本日、ゲスト卓話をしていただくのは私の友人で、雑賀

崎の極楽寺の住職であられる伊井智昭さんです。7 月の今年度第 1 回例会にメーフィヤップで出席された方です。高尚なお話よろしくお願い致します。

去る 9 月の台風 12 号による被災に際し、当クラブから義援金を送りましたが、先日、新宮ロータリークラブ会長よりご丁寧な礼状が届いています。要約してお伝えします。

台風 12 号は、上陸後も大型の勢力を保ったまま北上し、記録的な豪雨をもたらしました。熊野川の氾濫や土砂崩れにより尊い命が失われ、家屋についても全・半壊・流出・床上浸水が 1700 棟を超えるという甚大な被害を受けました。降り続く雨に恐れを感じ、受けた被害の大きさに言葉を失いながらも、皆様の暖かい励ましに支えられ、今日まで復興が進んでまいりました。完全復興にはまだまだ時間を必要としますが、2640 地区の皆様から頂いた「お気持ち」とロータリーの大きな「絆」を支えに、新宮ロータリークラブ

会長 田村 健治 君



一同地域の復興と発展に努力してまいる所存です。重ねて感謝・感謝ということです。

さて今日は、日本経済の問題点の 1 つである加速する企業の空洞化について、ちょっとだけお話しします。

今、ベトナムの首都ハノイ郊外の工業団地に異変が起きているようです。日本の中堅・中小企業からの用地購入の申し込みが殺到し、大半の工業団地が売り切れ状態になっています。日本企業のベトナム進出は過去 10 年で着実に増えてきたものの、大半はキヤノン、ホンダなど大企業が中心で、部品や加工専門の中堅、中小企業の進出は限られていました。それが様変わりし、中堅・中小企業の進出ラッシュが起きています。

こうした動きはベトナムだけに限らず、洪水被害で日系企業の操業が大きな打撃を受けたタイ、内需が急膨張し、東南アジア最大の市場の地位を固めつつあるインドネシア、低コストの若年労働者が豊富なバングラデシュなどにも進出が広がっております。歴史的に見ますと、製造業の海外進出は戦後、波状的に何回か起きています。1970 年代初頭に米欧との貿易摩擦で起きたエレクトロニクス、自動車産業の米欧への工場展開、85 年 9 月のプラザ合意伴う急激な円高に対応した大手から中小企業までを包含した広範な東南アジアへの工場移転。2001 年の WTO 加盟後の対中進出などです。一見すれば、今回の動きもそうした流れの一つに映りますが、実際は全く異なっております。

それは、中小企業の場合日本と海外のふたつの拠点のバランスをとって運営するほど資金や人材の余裕がなく、海外展開は国内拠点の実質的な縮小、閉鎖につながる可能性が高いからです。中小企業の海外進出は片道切符の「移住型進出」になるといつても過言ではありません。ここまで追い込まれた原因は、人口減少、少子高齢化に伴う国内需要の減退、1 ドル 70 円台という円高の主に二つ要因があります。

もちろん世界で最も高い法人税率や固定資産税の負担といった問題もありますが、とても日本で製造業が生き残れる環境ではなくなりつつあります。それは雇用の喪失、失業率の低下に繋がります。国はどう考えているのでしょうか。心配ですね。

1月はロータリー理解推進月間です

四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- | | |
|----------|----------------|
| ①真実かどうか | ③好意と友情を深められるか |
| ②みんなに公平か | ④みんなのためになるかどうか |



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：田村 健治 幹事：山畑 弥生 SAA：岩井 克次

7. 幹事報告

○例会臨時変更のお知らせ

和歌山東RC 1月26日(木)→1月26日(木)

18:30~ ダイワロイネットホテル
ご長寿お祝い例会

○IDMの案内

テーマ「これでいいのか 海南東ロータリー」

元気を回復、活性化するためには

1月中旬から、2月15日までに各組で日程を決めて開催してください。3月第2週に発表を予定していますので、よろしくお願ひします。

8. 委員会報告

○国際奉仕委員会

2012年R I 国際大会は5月5日から、タイのバンコクで開催されます。当クラブでは5月4日~7日の旅程で参加者を募りますので、参加していただける方は、2月初旬までに事務局までお知らせください。

○社会奉仕委員会

「がんばれ海南 だれもがすみよいまちづくり」～福祉のまち、障がいを持つ方々の自立生活を目指して～をテーマにお手元のパンフレットのとおり、2月5日、3月11日に講演会等があります。

主催は社会福祉法人一峰会、あすなろ共同作業所で、入場は無料。ご参加いただける方は、事前に入場整理券を申し込んでください。

幹事 山畠 弥生 君



9. ゲスト卓話

浄土真宗本願寺派

極楽寺 住職 伊井 智昭 様 (大阪南RC)

伊井 智昭 様の紹介 (大澤 祥宏 君)

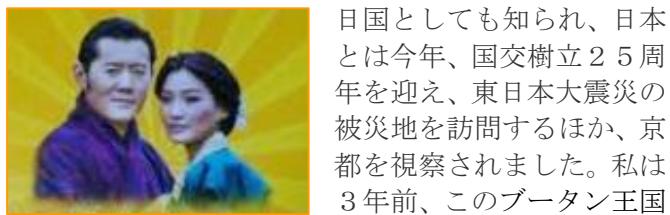
本日、卓話いただく、伊井 智昭 (いい ちしお) 様は、和歌山市雜賀崎の浄土真宗本願寺 派極楽寺の住職で大阪南ロータリークラブのメンバーです。元浄土真宗本願寺派財務委員のほか、相愛学園の理事長を歴任され、当クラブの岩井S A Aの同級生、田村会長の碁の好敵手、荻野君の親戚でもあります。

みなさん、こんにちは。私は大阪南ロータリークラブのメンバーですが、海南東RCの例会にお招きいただき、驚いたことは、最初に食事をいただることです。私のクラブは会員が130名。出席率約80%ですが、12時に開会し厳粛に始ま



ります。ところ変われば、それぞれ、各地域のロータリークラブの個性や楽しさがあって、とても良いと思います。

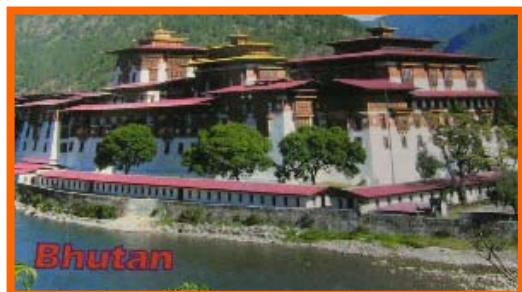
今日は「ブータン王国」について、お話をいたします。昨年の秋、ブータンのジグメ・ケサル・ナムゲル・ワンチュク国王と王妃が来日されました。ブータンは親



日本としても知られ、日本とは今年、国交樹立25周年を迎え、東日本大震災の被災地を訪問するほか、京都を視察されました。私は3年前、このブータン王国へ行つてきました。ブータンは今でも王政ですが、ネパール仏教を国教とし、国王も国民のための政治体制を整備し、現在では国会や首相もあり、民主的に取り組まれています。私が宿泊したところは、3階建ての家で、1階は家畜専用、2階は住居となります。住居には家族がそろって食事をし、仏間もあります。毎朝、晩には揃って勤行をします。また、市場では各自自分が作ったものを持ち寄り、物々交換で楽しく取引していました。通貨はありますが、お互いが交渉し取引していました。

今回、日本でブータンが有名になったのは、GNH 「国民総幸福量」が97%という国です。ヒマラヤの小国ブータンには、GNHという概念があります。日本語に訳すと「国民総幸福量」。国民全体の幸福度を示す尺度のことで、国内総生産(GDP)や国民総生産(GNP)に代わる概念として、1972年、当時の国王ジグミ・シング・ワンチュクが提唱したものです。

ブータンでは、このGNHを国是とし、近代化の速度をコントロールしながら、伝統や習慣も守ろうとしており、物質的な豊かさより、精神的な豊かさを目指すべきだという考えは、GDPやGNPの追及で息切れ気味の先進国からも注目されています。ちなみに、ブータンのGNPは世界174位です。ブータンの国勢調査には「あなたは今幸せか」という質問項目があり、2005年の国勢調査では97%の国民が「幸せ」と答えた。ちなみに、ブータンの国民一人当たりの平均所得は10万円を切っています。ブータン



の20代の女性は、祈りについてこう答えています「ブータンのお葬式でささげる祈りは、死者の為のものではない。輪廻転生でみんなつながっているから、生きとし生けるもの全ての為の祈り。あとは造された人たちが悲しみから救われて前を向いて歩いていけるように」また、日本では、合格祈願や良縁祈願などを絵馬に書いて祈る風習があるということを聞いた彼女は、「ブータンでは現世の自らの幸せのために祈ることはしない。そんな個人的・世俗的な事柄を祈ると、

それが叶わなかつたときに苦しい思いをするでしょうね」と答えていました。

私の浄土真宗にも通じるところがあり、親鸞聖人は父母のために念仏を唱えるのではなく、みんなの幸福のためと説いています。中国に地獄の閻魔様を祭つてあるところがあります。閻魔様の奥様もあり、結構、美人です。その閻魔様ですが、日本でも人が亡くなると初七日のお勤めがありますが、これは、地獄行きかの裁判みたいなもので、このときの僧侶が弁護士のようにお経を唱えます。仏教も中国を経由し、日本に伝わりましたが、もともとの仏教の教えは、個人のために祈るものではなく、多少、変化してしまったのではないかと思います。ネパール仏教では輪廻転生、日本では自業自得が基本で、決して個人のためではありません。宮本武蔵も神仏は頼すれど頼むものではないと言っています。

経済活動に合理主義や成果主義はつきものだが、その行き過ぎは従業員のモチベーション低下や組織の沈滞化を招きかねません。その思いから「社員満足度」の概念を取り入れた「働きやすい職場づくり」を実施する企業は少なくありません。何のために働くのか、何のための企業なのか。経営者には、そんな高みからの見識が改めて問われる時代なのかも知れません。物は豊かでも心が貧しい。物は無くても幸せだ。

日本人も本当の「幸せとは何か?」を考えなければなりません。

10. 閉会点鐘

次回例会

第 1688 回例会 平成 24 年 1 月 23 日(月)
12:30~ 海南商工会議所 4F
ゲスト卓話 海南省青少年センター
センター長 編野 茂身 様



ニコニコ・BOX
Happy Birthday

◆ 1月お祝い ◆

○会員誕生日

1日 中尾 享平君 13日 金川 龍一君
11日 平尾 寧章君

○奥様・旦那様誕生日

2日 中尾 みち子様 29日 塩崎 和櫻様
7日 魚谷 佳加様 30日 大谷 洋子様
20日 谷口 裕子様

○結婚記念日

9日 朝井 修君 20日 那須 正志君
10日 阪口 洋一君 28日 大谷 徹君

○一般ニコニコ

宮田 敬之佑君 角谷君の代理です。TV ルソンの壺 (NHK 1月 15 日放送) が放送され、再放送が 18 日 11:05~あります。また、ご覧ください。

大澤 祥宏君

今日は井伊さんに卓話をお願ひしました。

荻野 昭裕君

ゲストの伊井 智昭様、本日ありがとうございます。

上中 嗣郎君

伊井さん、今日は有難うございます。角谷さん、テレビ出演おめでとうございます。

田村 健治君

伊井 智昭様、本日、卓話よろしくお願ひします。

山畠 弥生君

〃

岩井 克次君

伊井さん、今日は有難うございます。卓話よろしくお願ひします。

柳生 享男君

先日、サファリの会、皆様にお世話になりました。

三木 正博君

今日はパラリンピックの理事会出席のため、例会を先に抜けさせていただきます。

奥村 匡敏君

2日前、6人目の孫が生まれました。



国際ロータリー ニュース

世界を変えるために、 フォークシンガーから平和フェローに転身

将来の活躍が期待される若者に投資し、よりよい世界の実現を目指すロータリー平和センタープログラム。このプログラムに参加した一人、2008-10 年度ロータリー平和フェローであったデイビッド・ラモットさん(米国)は、現在サンディエゴで開催中の国際協議会で講演し、ロータリーから与えられたこのプログラム参加の機会に改めて感謝の気持ちを述べました。

スキルを磨き、平和フェローのネットワークの一員になれたと話すラモットさん。ほかの留学プログラムとは異なり、ロータリー平和フェローとなるには、将来性以上のことが期待されると言います。「むしろ、既に平和のために貢献を果たしてきたキャリア中頃の人にふさわしいプログラムだと思います。(中略) ロータリー平和フェローシップは大きな投資となるわけですから、その効果を最大限にするため、ロータリアンが慎重に選考を行っているのは非常に賢明なことだと思います。私が知っている平和フェローを見ても、この投資は大きな成功を収めていると言えるでしょう」



2008-10年度ロータリー平和フェローのデイビッド・ラモットさん

ラモットさん自身は、標準的な平和フェローと比べると、一風変わった候補者でした。フォークシンガー

として、4大陸を訪れ、2万回以上のコンサートを行い、これまでに10枚のCDをリリースしてきました。しかし、ミュージシャンとしてのキャリアの成功の一方で、平和への情熱を常に持ち続け、専門的な教育を受けて平和のために役立てる機会を模索していました。転機となったのは、2004年に夫婦でグアテマラのアンティグアを訪れたときでした。218人の生徒が通う学校には、水道がありませんでした。水道を引くための資金がなかったのです。その費用はわずか125ドルでしたが、政府からの補助がなく、維持費をすべて親たちに頼る状況では、とても手に入らないお金でした。この学校訪問を機に、ラモットさんは非営利団体「PEG Partners」を発足しました。この団体は、グアテマラの学校を支援するため、ボランティア活動を先導し、ラモットさんのコンサートで少額の寄付を集めています。過去2年間で活動に充てた資金は、10万ドル近くに上ります。「米国の標準では大きな金額ではないかもしれません、グアテマラでは相当な価値があります。例えば、小さな校舎を2,500ドルで建てることができました」

ミュージシャンとしてのキャリアを中断して、平和構築のために修士課程で勉強すると話すと、その平和への熱意を冷笑する人がたくさんいた、と話すラモットさん。しかし、「“世界を変える”とは、“世界を正す”ことではない」と語ります。「この世界に生きるということは、世界を変えることです。自分が行うすべてのことが世界を変えます。それが自分の意に沿わないことでもです。小さな変化が、しばしば大きな変化につながります。私たちが自問すべきなのは、どんな変化を与えていきたいか、ということです」、「ロータリー平和フェローシップを通じてロータリアンの皆さまがしていることは、変化の助長です。私一人のことだけを申し上げているのではありません。大勢の人々の人生を変えるということであり、それを私が皆さまに代わって行っているのです」。

家族を失った子どもたちに医療を

ジャワ島（インドネシア）の州都ジョグジャカルタには、メラピ火山の噴火による火砕流で家族と家を失った何千もの子どもがおり、その多くが医療ケアを必要としていました。

この状況を何とかしたいと考えた第1200地区（英国）と第3400地区（インドネシア）のロータリアンは、ロータリー財団のマッチング・グラントを通じて、基本的医療を提供



英国とインドネシアのロータリアンの支援により、移動診療所プロジェクトが実現。写真は、ジョグジャカルタの子どもを診察する内科医。写真提供：ロータリー第1200地区

する移動診療所プロジェクトを開始しました。

このプロジェクトは、2008年に実施されたロータリーの研究グループ交換（GSE）をきっかけとして実現しました。第1200地区からのチームを率いていたロータリアン、ヒューゴ・パイクさんは、インドネシアを訪問中にこれらの子どもたちの現状を知り、帰国後、地区で移動診療車を提供するプロジェクトを立案したのです。この診療車があることで、現地の医療スタッフは、支援を緊急に必要としている地域を訪ね、診察を行うことができます。インドネシアのロータリアン、エリー・ウィサンティ・ウタマさんは、英国のGSEチームがジョグジャカルタを訪問しなかったら、今回のプロジェクトは実現しなかっただろうと話します。

火山が再び噴火

2010年9月、両地区からの寄付とロータリー財団からの支援により合計20,000ドルが集まり、プロジェクトは順調にスタートしたかに見えました。

しかし、開始から1カ月後、火山が再び噴火する緊急事態が発生しました。350人以上が死亡、35万人以上の住民が避難を余儀なくされ、医療スタッフは、混雑する病院で負傷者の治療に当たらなければなりませんでした。

プロジェクトは、2011年2月まで再開を待たなければなりませんでした。しかし再開後には、以前より多くの地元病院がプロジェクトに加勢することとなり、移動診療所は22カ所で実施できるようになりました。その結果、プロジェクトが終了する6月までに、当初の予想を3倍以上も上回る、3,636人の子どもたちを診察することができました。現在、パイクさんをはじめとするロータリアンは、プロジェクトの継続に向けて、新たな資金確保を目指しています。

プロジェクトに加わった病院の理事を務めるアルス・フェリー医師は、医療ケアを受けることは「基本的人権」であると話し、ロータリーと一緒に人道的活動を行えたことが、「病院にとって大きな名誉」であると話します。また、ほかの病院で理事を務めるソニー・アリア・ラクサン医師は、このプロジェクトを通じて、子どもたちに安全な生活を約束できる一方、活動に参加した医師には現実を知ってもらうことができると述べ、プロジェクトの継続を強く望みました。

1月はロータリー理解推進月間です

2012年国際大会

2012年5月6~9日
“微笑みの国”タイ
バンコク
参加者募集中！

